

「施策」総括票

施策展開	3-(2)-ウ	観光客の受入体制の整備	
施策	①交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化		171頁
対応する 主な課題	<p>○空の玄関口である那覇空港については、観光客の増大に対応できるよう那覇空港の滑走路増設、海外誘客を強化するための国際線ターミナルの移転・拡充が大きな課題となっている。</p> <p>○海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。</p> <p>○観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。</p> <p>○中高年及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化など人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。</p>		
関係部等	企画部、土木建築部		

I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
	主な取組	決算見込額	推進状況	活動概要
○空のゲート機能充実				
1	那覇空港の滑走路増設整備	10,821	順調	<p>○滑走路整備については、環境影響評価法に基づく準備書に関する手続を行い、平成25年度事業化及び早期供用を求める要請、滑走路整備の事業全体の整備財源の確保を求める要請を行った。(1)</p>

様式2(施策)

2	那覇空港旅客ターミナルビルの整備	213,215	順調	○旅客ターミナルの事業主体である那覇空港ビルディング(株)は、那覇空港新国際線ターミナルビル新築工事、国内線旅客ターミナルビル増築工事に着手した。なお、平成24年度は、大規模な投資がかさむことから、健全経営を図るため同社の増資の求めに応じ、県は出資を行った。(2)
3	離島拠点空港の国際線受入体制の整備	175,871	順調	○石垣空港ターミナル(株)に補助金を交付し、国際線ターミナルビルとCIQ施設を整備した。(3)
○海のゲート機能充実				
4	那覇港国際旅客ターミナル整備事業	国直轄 那覇港管理組合	順調	○那覇港泊ふ頭地区の旅客ターミナル及びボーディングブリッジ等の整備を推進。(4)
5	那覇港コースタルリゾート・ウォーターフロント整備事業	那覇港管理組合	順調	○浦添ふ頭地区の小船溜まり整備・海浜緑地整備にかかる環境アセス(方法書関連)、泊ふ頭地区の緑地(泊)の整備を推進。(5)
6	那覇港人流機能強化関連事業	那覇港管理組合	順調	○那覇ふ頭波の上緑地整備、浦添ふ頭緑地(東)整備、クルーズ受入促進事業(歓送迎セレモニー)等を推進。(6)
7	那覇港臨港道路整備事業	国直轄 那覇港管理組合	順調	○臨港道路整備、那覇港管理組合による港湾1、2号線改良(交差点改良等)を推進。(7)
8	中城湾港・海洋レジャー拠点創出事業	720,654	順調	○中城湾港において突堤を整備した。(8)
9	圏域の拠点港(石垣港、平良港、本部港)の整備	石垣港:国直轄 平良港:国直轄 本部港: 1,031,297	やや遅れ	○石垣港において岸壁、防波堤、泊地の浚渫整備を行った。平良港では耐震強化岸壁、ふ頭用地、臨港道路・緑地等の整備を行った。本部港では、国際クルーズ船が寄港可能な耐震強化岸壁工事中に台風の影響を受け被災したことから「やや遅れ」となった。(9)

様式2(施策)

○陸上交通基盤の整備				
10	那覇空港自動車道の整備	国直轄	順調	○国は、豊見城東道路、小禄道路の整備を行った。県は、当該事業の促進を図るため、国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行った。(10)
11	沖縄西海岸道路の整備	国直轄	順調	○国は、読谷道路、北谷拡幅、浦添北道路、豊見城道路、糸満道路等の整備を行った。県は、当該事業の促進を図るため、国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行った。(11)
12	ハシゴ道路ネットワークの構築	3,856,791	順調	○沖縄環状線、浦添西原線、宜野湾北中城線、県道24号線BP、国道507号(津嘉山BP)、南部東道路等の整備を行った。(12)
13	沖縄都市モノレール延長整備事業	651,029	大幅遅れ	○モノレールインフラ部や関連道路等について、土質調査や実施設計及び用地取得等に着手したが、モノレールの特許申請に向けた資料取り纏め等に時間を要し、年度当初を予定していた事業着手ができず用地取得が遅れた。(13)
14	パークアンドライド駐車場の整備(第4駅周辺等)	0	やや遅れ	○第4駅パークアンドライド駐車場基本計画検討業務に着手したが、関係市町との協議に時間を要したため、年度内に完了できず、平成25年度に繰り越したため、「やや遅れ」となった。(14)
○観光地巡りが楽しくなるみちづくり				
15	観光周遊自転車ネットワークの形成	171,808	順調	○玉城那覇自転車道の整備を実施した。(15)
16	歩行空間の整備	1,677,481	順調	○国道449号や県道37号線等、歩道未整備箇所や狭隘箇所、通学路等において歩道を設置した。(16)

様式2(施策)

Ⅱ 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

1	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	那覇空港の年間旅客者数		1,423万人 (22年)	1,542万人 (24年)	1,600万人	119万人	福岡空港 1,595万人 (22年)
	状況説明	<p>旅客ターミナルの機能強化として、事業主体の那覇空港ビルディング(株)は以下の取組を行っている。 現国際線旅客ターミナルビルについては、平成26年春の供用開始を目途に新国際線旅客ターミナルビルの整備を進めている。 現国内線旅客ターミナルビルについては、平成25年9月供用開始を目途に増築を進めている。 国内線旅客ターミナルビルと新国際線旅客ターミナルビルを繋ぐ際内連結施設については、第2滑走路の供用も見据え、国、県、那覇空港ビルディング(株)において、施設の機能、内容及び整備スケジュール等について協議を始めている。</p>					
2	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	那覇港の年間旅客者数		59万人 (23年)	集計中	90万人	集計中	9,710万人 (23年)
	状況説明	<p>H28の目標値を達成すべく、利便性の高い港湾施設の早期整備・拡充、より一層の観光客誘致活動など、旅客者受入体制の充実に向けた対応が必要である。</p>					
3	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	クルーズ船寄港回数・入域乗船客数(県全体)		106回 116,309人 (23年)	集計中	166回 186,200人	集計中	—
	状況説明	<p>近年、外国船籍のクルーズ船が大型化しており、それに対応したバース整備が急務となっている。石垣港においては、クルーズ船寄港回数が順調に伸びてきており、さらなるクルーズ船寄港の増加に向け、大型旅客船ターミナル整備を推進することで、観光客の増加、経済波及効果が期待できる。 中城湾港(泡瀬地区)の早期供用に向け、埋立工事を推進するよう、国、沖縄県、関係機関と調整を図っている状況である。</p>					
4	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
	道路状況(渋滞状況等)に対する観光客満足度(国内客、「大変満足」の比率)		22.8% (21年度)	23.5% (24年度)	向上	0.7ポイント	—
	状況説明	<p>交通渋滞状況に関する観光客満足度については、若干向上しているものの、参考データの混雑時旅行速度からすると、全国と比較して低い水準が続いている。ただし、取組は、計画通り進捗しており、観光客の移動の円滑化につながっている。</p>					

様式2(施策)

(2)参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
那覇空港の発着回数(年間)	12.7万回	13.0万回	13.6万回	↗	—
滑走路処理容量に対する使用率【()内は発着余力】	91.4%(8.6%) (21年度)	93.5%(6.5%) (22年度)	97.4%(2.6%) (23年度)	↘	—
那覇港におけるクルーズ船寄港回数	57回 (21年)	52回 (22年)	53回 (23年)	→	—
混雑時旅行速度	—	28.3km/h (17年度)	27.3km/h (22年度)	→	35.1km/h (22年度)

Ⅲ 内部要因の分析 (Check)

○空のゲート機能充実

・那覇空港滑走路増設事業は、平成25年度新規事業化が認められたが、全体事業費の確保がなされておらず、整備財源の確保を求める必要がある。
 ・昨年度よりLCC(格安航空会社)3社が那覇空港への就航を開始しているが、国内線旅客ターミナルが狭隘化しているため、貨物地区に暫定LCCターミナルが整備されており、今後の航空需要の拡大に鑑みて、不足する旅客ターミナルへの対応について、国、県、那覇空港ビルディング(株)の関係者で早急に協議を進める必要がある。

○海のゲート機能充実

・本部港では、台風11号、15号により、工事中であった国際クルーズ船の寄港可能となる耐震強化岸壁が被災を受け、手戻り工事が発生したことにより、工事進捗が遅れている。

○観光地巡りが楽しくなるみちづくり

・歩道の設置のため沿道地の用地を取得する必要があるが、庭先や駐車場のみの補償となり地権者の理解が得られないことが多いため、事業の必要性について理解を得る必要がある。

○陸上交通基盤の整備

・道路事業を含む公共事業を推進するための財源が限られているなか、現状でも混雑時旅行速度が大都市圏並に低い水準であるのに加え、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることを踏まえ、体系的な幹線道路ネットワークの構築に向け効率的な取り組みを行う必要がある。

IV 外部環境の分析 (Check)

○空のゲート機能充実

・国の施策であるVisit Japan、マルチビサ等の規制緩和、オープンスカイやLCCの台頭という国際的な潮流により、近年、アジアからの観光入域客等が急激な伸びを示しており、今後も沖縄路線の増加が見込まれるため、那覇空港の滑走路処理容量はますます厳しくなることが予想される。
・LCC3社は、今後も数年にわたり機材を追加調達する計画であり、那覇空港において発着回数や利用者数の急激な増加が予想されるため、その対応について検討する必要がある。

○海のゲート機能充実

・近年、那覇港へのクルーズ船寄港回数は参考データに示すとおり年間50回を超えている。今後も寄港回数は増加すると見込まれるため、観光客の受入体制の強化に向けた旅客ターミナルビルの整備の必要性及び観光地としての快適な周辺環境の整備、観光客受入時のセレモニー等の重要性が増している。

○陸上交通基盤の整備

・中南部圏域の幹線道路では、混雑時の旅行速度が15km/hを下回る区間が多数みられるなど、大都市圏並の渋滞状況となっている。自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、那覇空港自動車道、沖縄西海岸道路の早期整備、及びハシゴ道路ネットワークの早期構築を図る必要がある。

V 施策の推進戦略案 (Action)

○空のゲート機能充実

・第2滑走路の整備財源については、那覇空港が、国の設置管理する空港であり、沖縄県にとどまらず、将来にわたる東アジア地域と日本の安定した社会経済活動を支える重要な拠点であることから、空港整備勘定等の他、日本再生の原動力としての観点から将来世代を含む社会及び国民全体で相応に負担される仕組みで確保することや、平成32年供用開始の計画どおりに整備を進めることを国に求めていく。
・県の玄関口である那覇空港は本県の経済発展を左右する最重要インフラであり、旅客ターミナルビルを設置・運営の事業主体である那覇空港ビルディング(株)に対して、公共的・安定的なターミナル運営がなされるよう、環境整備に努め、必要な財政支援を図っていく。

○海のゲート機能充実

・本部港では、台風対策に万全を期すため台風等の気象情報の入手・分析や適切な対策案を実施し、国際クルーズ船が寄港可能な耐震岸壁の早期供用を目指す。
・県と那覇港管理組合は、地元的那覇市や旅行会社、観光協会など関係機関等と協働し、観光客の受入体制の強化のための旅客ターミナルビルや周辺環境の早期整備及び受入セレモニーの充実など観光客、船社の満足度が上がるような取組を図っていく。

○陸上交通基盤の整備

・国、関係市町村等と連携しながら、ハシゴ道路ネットワーク構築を重点的に推進し、早期完成供用を目指すとともに、交通需要マネジメントなどのソフト施策との連携や主要渋滞箇所の優先的な整備など効果的な取組を行う。
・沖縄地方渋滞対策協議会において特定された主要渋滞箇所については、渋滞原因の分析や対策案の検討等、渋滞緩和に向けた取り組みを行う。
・県は国に対し、那覇空港自動車道、沖縄西海岸道路の早期整備の要望を積極的に行う。

○観光地巡りが楽しくなるみちづくり

・関係市町村の協力も得ながら、沿道地権者に対して事業の必要性などの説明や情報提供を行い、円滑な用地取得を進め、計画どおり歩行空間の整備を推進する。